

イージスアショア配備断念の軍事的検討

——ミサイル防衛に宇宙戦略・敵地攻撃を加えよ——

中朝露のミサイル技術が進化し、飛翔の途中で軌道を変更し、あるいは、特殊な軌道で飛翔する。この結果、イージスアショアを含むミサイル防衛そのものが困難になりつつある。このため、今後、変則飛翔するミサイルに対して、新たなミサイル防衛の戦略が必要になる。

西村 金一

▶軍事・情報戦略研究所長、
元防衛省・自衛隊情報分析官

今年の六月、防衛大臣が、イ

ージスアショアの配備断念を、突然に発表した。表面的な説明では、その主な理由は、「推進ロケットを演習場に落下させるための改修に高額なコストと期間が必要」というものだ。

導入価格見積りは当初、二基で約一六〇〇億円と積算されたものが、日本の導入決定から価格が上昇し、約四七〇〇億円にも跳ね上がった。防衛関係者からは、イージスアショアの導入に、次々と改良や訓練などの諸経費が積み重ねられ、価格が吊り上げられていくことに、不満

が噴出していった。

その他にも、選定したレーダーが機能しないのではないかと
いう疑問、高出力レーダーが住民の健康被害を及ぼすことや説明に誠意が感じられないなどの
地元対策問題があり、導入がスムーズに進まない事態が生じていた。

とはいえ、軍事専門家として私が注目するのは、予算の制約もあるが、「イージスアショアを配備するか、しないか」ということである。最大のポイントは、沖繩を含めた日本列島に飛翔してくる新型(改良型)ミサイルを

撃破できるのかどうかである。

これらのミサイルの特色、ミサイル誘導の仕組み、イージスアショアなどミサイル防衛システムで撃破できるのかどうかを分析し、これらのことを踏まえて我が国が備えるべき防衛能力について提言する。

断念の理由に、ミサイル防衛の欠陥が隠蔽されている

イージスアショアの推進ロケットを自衛隊の演習場に落下させるための改良に、「莫大な予算と時間が必要だ」というのは、

断念の理由にはならない。

もし、これが理由だとすれば、市ヶ谷に配備されるパトリオット迎撃ミサイルPAC3を発射すれば、一〇〜二〇km前方上空で撃破することになるので、敵のミサイルも迎撃ミサイルの破片も全て首都圏に落下する。もしも、これが化学弾であれば、化学剤が降り注ぐことになる。これまで、一部の住民に被害が及ぶからPAC3の配備をやめろという事はなかった。

それが、イージスアショアの迎撃ミサイルの推進ロケットやその破片を、住民が住む地域